

# デザイン視点を加えた医療機器等開発支援事業

－医療福祉分野にデザイン視点を盛り込む（第1報）－

## Medical and welfare product development with a design perspective (1<sup>st</sup> Report)

小野 大輔、工藤 洋司、宮下 育也\*、葛西 裕\*  
（\*工業総合研究所）

県が推進する「青森ライフイノベーション戦略」により、これまでも「メディカルトイの開発」など医療福祉分野への取組みを行ってきた。本事業は、昨年度の「コメディカル視点の製品開発強化支援事業」で提唱してきた内容を具体化し、実際の製品開発につなげることを意図している。そこで、医療福祉現場の中で必要とされているニーズと県内企業が持つシーズを結び、さらにデザイン視点（顧客視点）を付加し、医療福祉分野において商品力の高い製品の開発と供給を県内企業が行えるようにするためのプラットホーム型ビジネスモデルの成立を目標とした。そのため商品化を踏まえた製品開発を円滑に進めることを目的に、関係する各分野の参加者からなる研究会を組織し、ニーズとシーズに関する意見交換や製品企画立案、試作、検証を行った。その結果これまでに、木製家具の試作、試用検証計画の作成を行うとともに、多くの製品アイデアが蓄積された。

### （1）プラットホーム構築（研究会を組織 H31. 4/22 準備会合開催）

介護専門家、県内ものづくり企業、医療福祉施設等の関係者、販売事業者の参加を募り、組織準備会合を経たうえで「医療福祉デザイン研究会（以下研究会と表記）」を発足した。

### （2）現場ニーズを元にした製品の検討・企画（R1. 6/3、7/3、9/9、R2. 1/6 研究会開催）

4回の研究会を開催。現場ニーズと企業シーズ、既存製品の分析を行い、現場で求められている製品や要件を整理。製品の企画案を構築した。また細部仕様等についての検討を行った。

### （3）提案製品の試作（R1. 10～R2. 2）

研究会で作成した企画案や議論の中で生じたアイデアなどをもとに、福祉施設向け木製家具について当室のV-Cup分析を適用し設計および試作。また小物や布製品の試作をそれぞれ行った。

### （4）試作品の評価検討（R2. 3/2 試作品検討会開催）

試作した木製家具の研究会員への内覧を行い、その評価検証のため、現場での試用方法と評価項目を検討、議論した。また、会員がそれぞれ取組んだ布製品や電子機器等の試作状況について情報共有を行なった。

今後は製作した一次試作品を用いて、研究会での議論を元にした評価と検証を行い、試作品の改良と洗練に取り組む。またこの研究会員によるニーズから製品開発、販売（普及）までの一連のサイクルを、県内企業によるビジネスモデルとして成立させ、医療福祉の現場に県内企業による製品が開発、提供されるようになることを目指し、一連の取組みを続けていくものである。



写真1 研究会



図1 試作 V-Cup 分析